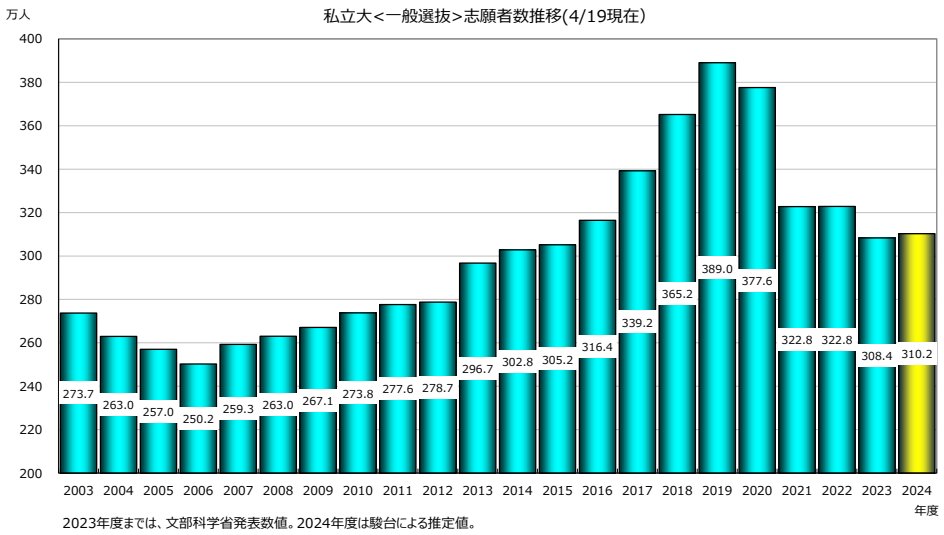
※本文中の(　)内の数値は、志願者数の前年度対比指数を表します。

◎志願状況全体概況

□延べ志願者数は前年度並

〔私立大志願者数推移〕



駿台集計による私立大232大学の一般選抜(学校推薦型選抜・総合型選抜等を除く)で志願者数が確定した募集単位を合計した延べ志願者数は、約275万人(101)で前年度並となっています。

この数値から推定される最終的な全私立大の延べ志願者数は、前年度308.4万人と比較して、約１%増加でほぼ前年度並の310万人前後になると予想されます。

このような、一般選抜志願者数の最終予想の背景には、下記の3点が考えられます。

① 私立大一般選抜が二極化しており、成績上位層の積極的な難関大志向による併願校数増加。一方で、成績中下位層の年内入試志向も強まっているが、一般選抜志願者数がもともと少なかったため、志願者数全体への影響は限定的。

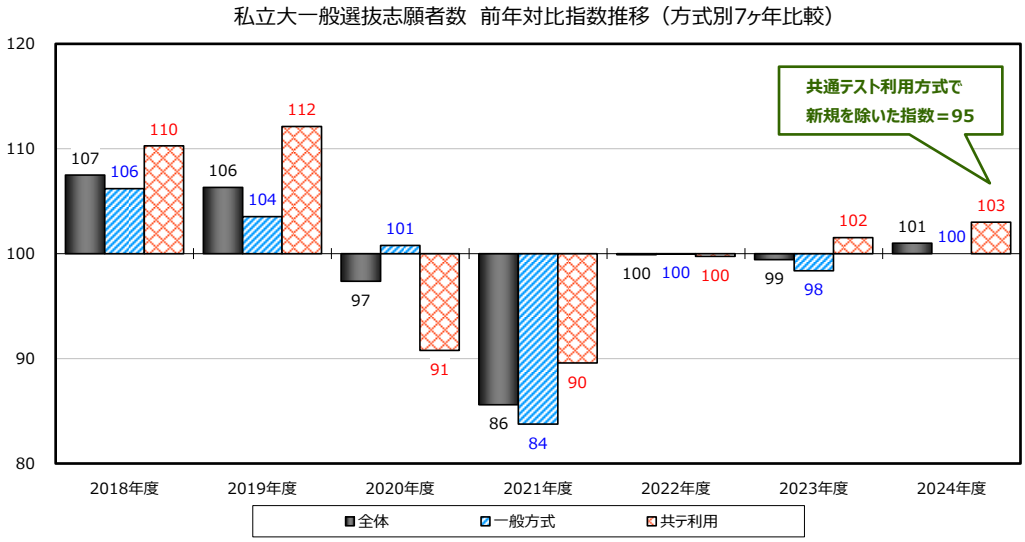
② 都市部の難関国公立大志願者の新課程移行への不安による首都圏、関西圏の難関私立大への併願数増加。

③ コロナ禍の収束に伴い、地方から都市部の私立大への志願者数の回復。

特に、③のコロナ禍の収束の影響で、北関東、東海といった都市部近郊に位置する私立大志願者数が増加しています。

□一般方式は前年度並、共通テスト利用方式はやや増加

〔私立大一般選抜 方式別志願者数 前年度対比指数〕



左のグラフは、私立大一般選抜の入試方式別の延べ志願者数の前年度対比指数の推移を表したものです。

2024年度では、一般方式(100)は前年度並、共通テスト利用方式(103)はやや増加となっています。ただし、共通テスト利用方式は、グラフにはありませんが新規導入の募集単位を除くと(95)のやや減少となっています。共通テスト利用方式は、成績中下位層の敬遠傾向はあるものの、国公立大併願者の多い難関大志願者を中心に負担の少ないことや受験料が安価なことから利用促進された結果、新規導入の募集単位を含めるとやや増加となっています。